

国際会議開催報告

国際シンポジウム「非線形科学の最前線と21世紀における材料科学への展開 (MATNON 05)」

宮田 貴章

「非線形科学の最前線と21世紀における材料科学への展開」(略称:MATNON 05)の国際研究集会は、2005年9月28日から30日まで京都工芸繊維大学総合研究棟において、日本学術振興会、文部省特定領域研究「極微構造反応」および京都工芸繊維大学国際交流基金によって開催された。

本シンポジウムには、外国から8ヶ国(アメリカ、フランス、ドイツ、ベルギー、スペイン、中国、韓国、イスラエル)計13名の研究者が招待され、また国内の招待講演者には北海道大学から九州大学まで計13名の研究者が来訪した。また、一般参加者として、大阪大学、京都大学、大阪工業大学、立命館大学および京都工芸繊維大学から約80名の学生が参加した。シンポジウムは、主に非線形科学および高分子材料科学の分野で得られたそれぞれの最新の成果;非高分子と高分子系における反応拡散機構とそのパターンセレクション、さらにプロセッシング、光照射などの開放条件下における高分子材料の挙動などのセッションが設けられ、3日間にわたり活発に討論が行われた。さらに、最後の日にパネルディスカッションが開かれ、「反応拡散機構を利用すれば、ナノスケールの構造まで設計できるか」、「高分子系における反応拡散機構のモデリング」などについて全体に討論された。

本シンポジウムのエッセンスが“Perspectives of Nonlinear Science in Materials Research”のモノグラフにまとめられ、World Scientific社から出版する予定である。

なお、本シンポジウムで発表された研究の趣旨は下記のURLにてpdf形式で収録されている:

<http://www.cis.kit.ac.jp/~matnon/program.html>

